

## 日中対照研究から見る“動詞＋進＋客体”について

胡 杰

### A Comparative Study on the Linguistic Structure of “Verb + 進 / jin + Object” in Chinese and Japanese

HU Jie

#### 摘要

本文以“動詞＋進＋客体”为中心，讨论了关于其对应的日语表现、以及在此结构中“進”的性质与“客体”的语义变化问题。我们发现汉语中的“動詞＋進＋客体”这一结构所对应的日语是多种多样的。“進”的性质也不全都是一般被认为的“补语”。关于“進”的性质，我们应该遵循“具体问题具体分析”的原则，不能一概而论。关于在此结构中的“客体”，它进入此结构之后并不能保持其原有的意义，每一个“客体”进入“動詞＋進＋客体”结构之后，有的直接发生语义变化成为表示场所的名词，有的则是后跟方位词以后成为表示场所的名词，也就是说进入“動詞＋進＋客体”结构的“客体”均会变化成为空间词。

キーワード：有様動詞 位置移動動詞 空間詞 連語論 構造的なタイプ

#### はじめに

前稿では位置移動を表す“進＋客体”について分析を行い、“進”の基本となる対象は空間詞であり、“進＋空間詞”を基本とする構造は以下の〔表1〕で示したように、四つの構造に分類できることを明らかにした。また、①の構造とそれに対応する日本語について考察し、中国語では連語論の観点から「空間的な進入」を表す“進＋空間詞”は、むすびつきや構造的なタイプの異なる多様な日本語表現に対応していることを明らかにした。

[表 1]

①	進 + 空間詞：他 <u>进</u> 店里了。[彼はお店に入った。]
②	動詞 + 進 + 空間詞：他 <u>走</u> 进店里了。[彼は歩いてお店に入った。]
③	進 + 空間詞 + 来 / 去：他 <u>进</u> 店里去了。[彼はお店に入って行った。]
④	動詞 + 進 + 空間詞 + 来 / 去：他 <u>走</u> 进店里去了。[彼は歩いてお店に入って行った。]

“進 + 空間詞<sup>1)</sup>”を基本とする連語の継続研究として、本稿では連語論の観点から [表 1] における②の主体の移動を表す“動詞 + 進 + 客体”構造を中心に分析を行い、以下の三点について検討する。

- I. 中国語の“動詞 + 進 + 客体”連語に対応する日本語表現
- II. 中国語の“動詞 + 進 + 客体”連語における客体の意味変化
- III. 中国語の“動詞 + 進 + 客体”連語における“進”は補語動詞<sup>2)</sup>と考えるべきか否か

### 1. “動詞+進+客体”の作る連語の分類

筆者の調査によれば、“動詞 + 進 + 客体”連語は、“進 + 空間詞 (客体)”を基本とするもの以外、基本とする部分の違いによって、さらに3種類に分けることができる。以下、実例<sup>3)</sup>を挙げながら、“動詞 + 進 + 客体”の作る連語の分類を検討してみよう。

- (1) 到了一楼，他径直走进电工房。(『講読』② p.80)  
 (彼は一階に下りると、まっすぐ電氣工事室 [電氣工の詰所] へ入って行った。(『講読』② p.88)
- (2) 给他递上自制地酸梅汤后，我一头钻进套房，捧起那篇迷人的《琴声》……(『講読』④ p.37)  
 (彼に自家製の梅ジュースを出すなり、奥の部屋に引込み、あの魅力的な物語『琴の音』を手にしました。)……(『講読』④ p.42)
- (3) 这一日，他同未婚夫在河边洗菜，忽听河对面传来“救命”的呼声，一个男孩掉进河里正被卷向河心。(『人民』91-2-96)  
 (その日、彼女が彼氏と川辺で野菜を洗っていると、突然、向こう側から「助けて」

1) 本稿では高橋 (2017) に従い、場所を表す名詞を空間詞と総称する。単語レベルで空間を表す場所名詞を「基本空間詞」と呼び、“動詞 + 進 + 客体”の連語のなかに用いられ、ある空間を表す場所名詞以外の名詞を「派生空間詞」と呼ぶ。

2) 上掲例文中の“走进店里”の“進”は一般に動補構造と名付けられ、“進”は動詞“走”の補語としている。朱德熙 (1982: 128) は“走进+宾语”の“進”は方向補語であると述べている。李臨定 (1993: 159) も同じように、“進”は方向補語であると記述している。

3) 日本語訳も資料のものである。

と声が上がった。男の子が川に落ち、流れの真ん中のほうに押されていく。）（『人民』91-2-96）

- (4) 住进城里的芦葦保留了一个习惯——吃萝卜，那种长着青缨儿、白皮或者青皮的萝卜。（『人民』19-4-68, 69）

（都会に住んでも、盧葦は一つの習慣を続けていた。それはダイコンを食べることで、緑の葉っぱと白い皮、あるいは緑の皮のダイコンだ。）（『人民』19-4-68, 69）

- (5) 然而，进门请脱鞋，在我跨进这户人家的门槛后，使我又回归了真实。（『人民』18-5-68, 69）

（靴を脱いで家に入った時、真實の私に戻されてしまっていた。）（『人民』18-5-68, 69）

- (6) 翌日清晨，五点半正，小闹钟把她从香甜的睡梦中唤醒，她立刻下床，开门，猛然，她看到他那铁塔般魁梧的身躯正堵在门口，就一头扑进了那厚实火热的胸膛，嘴里喃喃地叫道：“我的大傻瓜！”（『人民』88-1-93）

（翌日の朝、五時半ちょうど、目覚ましの音で彼女は心地よい眠りから覚めた。すぐにベッドを下り、ドアを開ける。と、鉄塔のようにがっちりとした彼の体がドアの前にあった。たくましい、熱く燃えるその胸にパッととびつくと、彼女は何度も何度もささやいた。「私の大バカさん！」）（『人民』88-1-93）

(1) の“走进电工房”と(2) の“钻进套房”を詳しくみてみると、これらの連語の基本は“走电工房”と““ 钻套房”ではなく、“进电工房”と“进套房”である。この二つの連語における“走”と“钻”は“进电工房”と“进套房”の方式を説明している。本稿ではこのような連語を“進+客体”を基本とする連語と呼ぶ。

(3) の“掉进河里”と(4) の“住进城里”の場合、“掉河里”“进河里”と“住城里”“进城里”はすべて成立する。しかし、(3) の“掉”、“进”と(4) の“住”、“进”は事態の起きる順で並べているが、意味の中心的な部分は“掉河里”と“住城里”である。これらの連語における“进”は基本義「入る」の意味ではなく、動詞の方向を示す機能義である。このことから本稿では(3) と(4) のような連語を“有様動詞+客体”を基本とする連語と名付ける。

(5) の“跨进这户人家的门槛”について、“进这户人家的门槛”は成立しないが、“跨这户人家的门槛”は成立する。しかし、連語全体は主体が“跨门槛”という動作により、“门槛”を境界線とする「ある空間に進入する」という意味を表すので、(5) における“进”は“跨”という動作の方向性を示すと同時に、主体が“门槛”を境界線とするある空間に進入するという意味も含まれている。故に、連語の全体的な意味を保持するには、“跨”と“进”はどちらも欠かせない。本稿では、(5) のような連語を“合成動詞+客体”を基本とする連語と呼ぶ。

最後に、(6)の“扑进了那厚实火热的胸膛”を見てみよう。(6)における“扑进了那厚实火热的胸膛”は“扑那厚实火热的胸膛”でも“进了那厚实火热的胸膛”でも単独で成立しないが、“扑”と“进”が合わさって初めて、“扑进了那厚实火热的胸膛”が成立できる。このような連語を、本稿では、“複合動詞+客体”を基本とする連語と呼ぶ。

以上の分類を表で示すと、[表2]のようにまとめることができる。

[表2]

例(1)と(2): “ <u>走进电工房</u> ”、“ <u>钻进套房</u> ”	“ <u>进+客体</u> ”を基本とする連語
例(3)と(4): “ <u>掉进河里</u> ”、“ <u>住进城里</u> ”	“ <u>有様動詞+客体</u> ”を基本とする連語
例(5): “ <u>跨进这户人家的门槛</u> ”	“ <u>合成動詞+客体</u> ”を基本とする連語
例(6): “ <u>扑进了那厚实火热的胸膛</u> ”	“ <u>複合動詞+客体</u> ”を基本とする連語

それでは、以上の四類の“動詞+進+客体”連語と日本語との対応関係を詳しくみてみよう。

## 2. “進+客体”を基本とする連語と日本語との対応関係

筆者の分析によれば、“進+客体”を基本とする“動詞+進+空間詞”連語を用いた実例に対応した日本語訳を「連語論的な意味」と「構造的なタイプ」で分けると、以下のように整理できる。

- (7) 中午听说我们要吃方便面，脸都涨红了：“再怎么穷，还没得吃饭？”一群人应声冲进门，齐声附和：“就是！就是！直是开玩笑嘛！”（『人民』18-6-68, 69）  
 （お昼にわれわれがインスタントラーメンを食べると聞くと、顔を赤くして、「どんなに貧しくても、ご飯くらいは食べられます」と言い、その声に応じて一群の人々がどっと部屋に入って来て、声をそろえて、「そうです、そうです。インスタントラーメンなんてご冗談でしょう」と言った。）（『人民』18-6-68, 69）
- (8) 她真想扑进他的怀里，叫一声“我的大傻瓜！”（『人民』88-1-93）  
 （彼の胸にとびこみ、彼女は「大バカさん！」と叫びたかった。）（『人民』88-1-93）
- (9) 李君是从农村蹦进城市的机关干部，既有农村生活的经历，也有城市生活的感受，据此，他写出一篇《山乡逸事》，一篇《舞厅艳遇》，自我感觉良好。（『人民』19-8-68, 69）  
 （李君は農村から都市にやってきた機関幹部であるため、農村生活の経歴があるだけでなく、都会暮らしも経験しており、そのため彼は『山里での逸話』と、『ダンスホールの情事』という作品を書き上げ、自分では良くできたと感じていた。）（『人民』19-8-68, 69）
- (10) 他感到儿子匆匆搁筷，找衣服，又跨进卫生间。（『人民』88-8-99）

（父親はそこそこにはしを置き、洋服を取りに行く息子を気配で感じた。シャワーを浴びに行ったようだ。（『人民』88-8-100）

- (11) 我不甘心——是的，不甘心——承认他，能有勇气有资格由我的女儿陪伴，走进我的家门。（『講読』⑥ p.113）

（私は引き下がらない、そうだ、引き下がって認められない——あの男が私が娘と一緒に、我が家の敷居をまたぐ勇氣と資格を持っているのを。）（『講読』⑥ p.116）

- (12) 一踏进大门，就听到儿子的哭声。（『人民』89-1-99）

（門を入ると、わが子の泣きさけぶ声があるではないか。）（『人民』89-1-99）

- (13) 在拐进一条胡同，他突然停住步，“哎呀”一声，想起今天还有约会。（『講読』⑥ p.23～24）

（横町をまがったとき、彼女は急に立ちどまった。「あら」と声をあげ今日約束があることを思い出した。）（『講読』⑥ p.32）

(7) の“涌进门（部屋に入って来て）”と (8) “扑进他的怀里（彼の胸にとびこみ）”の日本語訳は両方とも「空間的な進入のむすびつき」である。空間的な進入のむすびつきは、（高橋 2019：6）は「空間的な進入のむすびつきというのは空間領域のくみあわせのなかで、主体がある空間に入ることを意味するものである。」と定義している。構造的なタイプとしては、二格、へ格やマデ格のカザリ<sup>4)</sup> 名詞は「場所を意味する名詞」、カザラレ動詞は「進入を意味する動詞」である。

～に ～へ ～まで

場所を意味する名詞

～する

進入を意味する動詞

部屋に入る 会場へなだれ込む 座敷まで上がる 門に入る （高橋 2019：6）

(9) の“蹦进城市（都市にやってきた）”と (10) “跨进卫生间（シャワーを浴びに行った）”の日本語訳は「空間的な移りのむすびつき」である。空間的な移りのむすびつきは、高橋（2019：6）は「空間的な移りというのは空間領域のくみあわせのなかで、主体がある空間からある空間に移ることを意味するものである。」と定義している。構造的なタイプとしては、「場所を意味する名詞」をカラ格、へ格、二格やマデ格のカザリとし、「移りを意味する動詞」をカザラレとしている。

4) ここのカザリ名詞とカザラレ動詞は鈴木（2011）の説明に従う。鈴木（2011：5）はカザリ名詞とカザラレ動詞を以下のように説明している。

「コップをこわす」のばあいでは、動詞「こわす」をもとにして、それにヲ格の名詞「コップを」が付加されているのだが、そこでの「コップを」を「カザリ」、「こわす」を「カザラレ」とよんだのである。」

〔～から〕 // ～へ ～に ～まで

～する

場所を意味する名詞

移りを意味する動詞

学校へ行く 公園に行く 会社まで来る 大阪から東京に来る (高橋 2019: 6)

(11) の“走进我的家门 (我が家の敷居をまたぐ)”と (12) “踏进大门 (門をえる)”の日本語訳は「空間的な通過のむすびつき」である。空間的な通過のむすびつきというのは空間領域のくみあわせのなかで、主体がある空間を通過することを意味するものである。<sup>5)</sup> 構造的なタイプとしては、ヲ格の「場所を意味する名詞」をカザリとし、「通過を意味する動詞」をカザラレとしている。

～を

～する

場所を意味する名詞

通過を意味する動詞

税関をとおる やぶをぬける 川をよこぎる 橋をわたる (鈴木 2011:29)

(13) の“拐进一条胡同 (横町をまがった)”の日本語訳は「空間的な進行<sup>6)</sup>のむすびつき」である。空間的な進行のむすびつきとは空間領域のくみあわせのなかで、主体が一定の進行動作を実現させることを意味するものである。構造的なタイプとしては、ヲ格のカザリは「場所を意味する名詞」、カザラレ動詞は「空間的な進行を表す動詞」である。

～を

～する

場所を意味する名詞

進行を意味する動詞

山を登る 公園を歩く 林をさまよう 駅前をぶらつく (鈴木 2011:29)

上記の実例の日中両言語を対照すると、「空間的な進入」を表す中国語連語“動詞+進+客体”、即ち“進+客体”を基本とする連語はむすびつきや構造的なタイプが異なる日本語の四つの表現に対応していることがわかる。“進+客体”を基本とする中国語の連語“動詞+進+客体”における“動詞”はすべて“進”の方式を表している。表にまとめると以下のようになる。

[表3]

	むすびつき
例 (7) と (8)	空間的な進入のむすびつき
例 (9) と (10)	空間的な移りのむすびつき
例 (11) と (12)	空間的な通過のむすびつき
例 (13)	空間的な進行のむすびつき

5) 鈴木 (2011) と高橋 (2019) を参考にし、筆者が定義したものである。以下、引用先が明示しない場合はすべて筆者が定義したものである。

6) 「空間的な進行のむすびつき」に属す訳例は今回の調査対象となった事例には 1 例しかなかった。

中国語の空間的な進入のむすびつきは1表現“動詞+進+空間詞”だが、日本語の訳文は(7)(8)のような空間的な進入のむすびつきだけでは訳せず、なぜ四表現になるのであろうか。これについて、高橋(2020:55~74)では中国語の実質視点と日本語の話題視点の違いであるとしている。高橋は中国語の実質視点で表現する“上车”は、日本語では話題視点で「バスに乗る、電車に乗る、ジープに乗る、トラックに乗る」などに訳せるとしている。

続いて(7)から(13)の“進”の後ろの名詞について考えてみよう。“進”の後ろの体言性の語句はそれぞれ“門”、“他的怀里”、“城市”、“卫生间”、“我的家门”、“大门”と“一条胡同”であり、単語レベルでの場所名詞“城市”、“卫生间”、“胡同”は基本空間詞である。“門”、“我的家门”、“大门”は、もの名詞ではあるが、位置移動の動詞“進”と組み合わせたり、通過点である空間や進入する空間を表す。ここでは派生空間詞と呼ぶ。故に、空間領域のくみあわせ“動詞+進+客体”の作る連語の中で、“進”の後ろに来る空間詞以外の名詞はすべて意味変化していることが確認できる。“他的怀里”について、“怀”そのものは体名詞であるが、方位詞“里”が後接することにより、“怀”が場所化される。以上の分析から“進+客体”を基本とする連語“動詞+進+客体”における位置の移動を表す“進”の後ろは空間詞がくるのが基本であると看取できる。

尚、“進+客体”を基本とする連語“動詞+進+客体”における“進”は補語と考えるべきかについて、前述のようにこの構造において、基本とする部分は“進+空間詞”であり、“進”の役割は“動詞”の補足説明ではなく、位置の移動を表している。「動詞」は連語における主要動詞ではなく、“進”の方式や様態を説明しているだけである。故に、この構造における“進”は一般的に説明されている動補構造のなかの補語動詞ではなく、述語動詞であると考えられるべきだと思われる。

続いて、“有様動詞+客体”を基本とする連語と日本語との対応関係を検討する。

### 3. “有様動詞+客体”を基本とする連語と日本語との対応関係

“進+客体”を基本とする連語と異なり、“有様動詞+客体”を基本とする連語の実例は比較的少ない。“進+客体”を基本とする連語に対応する日本語訳は「空間的な進入のむすびつき」が圧倒的に多いのに対して、“有様動詞+客体”を基本とする連語に対応する日本語訳は多様である。筆者が収集した“有様動詞+客体”を基本とする連語は以下の6例である。

(3) 这一日，他同未婚夫在河边洗菜，忽听河对面传来“救命”的呼声，一个男孩掉进里正被卷向河心。(『人民』91-2-96)

(その日、彼女が彼氏と川辺で野菜を洗っていると、突然、向こう側から「助けて」と声が上がった。男の子が川に落ち、流れの真ん中のほうに押されていく。)(『人

民』91-2-96) (再掲)

- (4) 住进城里的卢苇保留了一个习惯——吃萝卜，那种长着青缨儿、白皮或者青皮的萝卜。  
 (都会に住んでも、盧葦は一つの習慣を続けていた。それはダイコンを食べることで、緑の葉っぱと白い皮、あるいは緑の皮のダイコンだ。) (『人民』19-4-68, 69) (再掲)
- (14) 八十岁，老吴住进了医院的病危室。(『人民』21-2-82)  
 (80歳の呉さんは、病院の集中治療室に運び込まれた。) (『人民』21-2-83)
- (15) 搬进新楼住了半年，同一楼的对门邻居姓什么都不知道。(『人民』90-11-96)  
 (新しい高層アパートに引っ越して半年になるが、真向かいに住む隣人の姓はなんと言うのか、いまだに分からない。) (『人民』90-11-96)
- (16) 从我住进病房的那一刻起，对面床上的那对夫妻便一直小声地争吵着——女人想走，男人要留。(『人民』19-6-68, 69)  
 (私が入院した時からずっと、向かいのベッドの夫婦は小声で言い争っていた。女性は家に帰りがあっていて、男性は引き留めようとしていた。) (『人民』19-6-68, 69)
- (17) 妈妈朝我努嘴，我把妈朝外一推，自己躲进房内，心在“扑扑”地跳。(『講読』④ p.35)  
 (母はあごをしゃくりました。母を外へ押し出して、私は部屋の中に隠れました。胸はどきどきするばかりです。(『講読』④ p.41)

(3) の“掉进河里”に対応する日本語訳「川に落ち」は「空間的な移りのむすびつき」である。

(4) の“住进城里”に対応する日本語訳「都会に住んでも」は「社会的な存在のむすびつき」である。高橋(2021)は「社会的な存在のむすびつきとは、カザリが空間詞でカザラレが社会的な存在を意味する動詞の場合であれば、ある空間での主体の社会的な存在を表す」と定義している。構造的なタイプは以下ようになる。

～ニ

場所を意味する名詞

東京に住む 市街に暮らす

～スル

社会的な存在を意味する動詞

寮に住みこむ

(14) の“住进了医院的病危室”に対応する日本語訳「病院の集中治療室に運び込まれた」は「相手中心の空間的な移りのむすびつき」である。高橋(2021)は相手中心の空間的な移りのむすびつきの連語論的な意味と構造的なタイプを以下のように述べている。



連語論的な意味：相手中心の空間的な移りのむすびつきとは、ヲ格のヒト名詞を二格・へ格・マデ格の空間詞で表す空間を対象として、その場所に移すことにより実現される相手中心のヒトの移動である。

構造的なタイプ： ～ヲ      ～ニ      ～スル  
 ヒトを意味する名詞    空間を意味する名詞    移りを意味する動詞  
 祖父母を松島に連れて行く    祖父を病院へ運ぶ    母を東京スカイツリーに案内する

(15) の“搬进新楼”に対応する日本語訳「アパートに引っ越して」は「社会的な進入のむすびつき」である。高橋（2021）は「社会的な進入のむすびつきとは、二格・へ格・マデ格のカザリ名詞で表す社会的な空間を対象として、その社会的な空間に進入することにより実現されるヒトの社会的な移動である」と定義している。構造的なタイプは以下のように示している。

構造的なタイプ： ～ニ    ～へ    ～マデ      ～スル  
 社会的な空間を意味する名詞      進入を意味する動詞  
 土管に引っ越す    会社へ就職する    大学院まで進む

(16) の“住进病房”は「入院した」に訳され、中国語の連語“住进病房”は日本語の一単語に対応している。

(17) の“躲进房内”に対応する日本語は「部屋の中に隠れました」であり、空間的な消滅のむすびつきである。高橋（2021）は「空間的な消滅のむすびつきとは、二格・へ格・カラ格のカザリ名詞で表す空間を対象として、その場所で、あるいはその場所から消滅することにより実現されるヒトの動作である。」と定義し、構造的なタイプは以下のようにまとめている。

構造的なタイプ： ～ニ、へ、カラ      ～する  
 空間を意味する名詞      消滅を意味する動詞  
 蔵の中に消える      職員室からいなくなる    木陰に隠れる

以上の分析から、中国語の“有様動詞+客体”を基本とする“動詞+進+客体”の連語は、むすびつきや構造的なタイプの異なる日本語に対応していることがわかる。また、この構造の意味を表す中心的な部分は“動詞+客体”であることから、動詞に後接している“進”は動詞の方向性を補足説明しているだけであり、補語動詞と看做すべきと分析できる。“有様動詞+客体”を基本とする連語とそれに対応する日本語のむすびつき

を表にまとめると、以下のようになる。

[表4]

	むすびつき
例 (3)	空間的な移りのむすびつき
例 (4)	社会的な存在のむすびつき
例 (14)	相手中心の空間的な移りのむすびつき
例 (15)	社会的な進入のむすびつき
例 (16)	単語
例 (17)	空間的な消滅のむすびつき

続いて、“有様動詞+客体”を基本とする“動詞+進+客体”連語における“客体”について考えてみよう。“動詞+進”の後ろの名詞性語句はそれぞれ“河里”、“水里”、“城里”、“医院的病危室”、“新楼”、“病房”と“房内”であり、単語レベルでの場所名詞は、“医院的病危室”、“新楼”と“病房”である。“水里”は“水”が自然名詞で方位詞“里”によって場所化されている。“房内”は“房”がもつ名詞で方位詞“内”によって場所化されている。“河里”、“城里”における“河”と“城”は場所名詞であるが、連語における場所をよりはっきりさせるために、“里”という方位詞を付け加えたと考えられる。故に、この類の連語における“動詞+進”の後ろの客体はすべて場所を表す名詞あるいは名詞連語、即ち空間詞であり、客体の意味変化は生じていないことが確認できる。

#### 4. “合成動詞+客体”を基本とする連語、“複合動詞+客体”を基本とする連語と日本語との対応関係

“合成動詞+客体”を基本とする連語と“複合動詞+客体”を基本とする連語の実例について、筆者が集めた実例は1例ずつしかないが、その2例を挙げながら、それに対応している日本語、連語における“進”の性質や客体の意味変化を確認してみよう。

- (5) 然而，进门请脱鞋，在我跨进这户人家的门槛后，使我又回归了真实。（『人民』18-5-68, 69）  
 （靴を脱いで家に入った時、真実の私に戻されてしまっていた。）（『人民』18-5-68, 69）（再掲）
- (6) 翌日清晨，五点半正，小闹钟把她从香甜的睡梦中唤醒，她立刻下床，开门，猛然，她看到他那铁塔般魁梧的身躯正堵在门口，就一头扑进了那厚实火热的胸膛，嘴里喃喃地叫道：“我的大傻瓜！”（『人民』88-1-93）  
 （翌日の朝、五時半ちょうど、目覚ましの音で彼女は心地よい眠りから覚めた。す

ぐにベッドを下り、ドアを開ける。と、鉄塔のようにがっちりとした彼の体がドアの前にあった。たくましい、熱く燃えるその胸にパットとびつくと、彼女は何度も何度もささやいた。「私の大バカさん！」（『人民』88-1-93）（再掲）

「合成動詞+客体」を基本とする連語である(5)の“跨进这户人家的门槛(家に入った)”の日本語訳は「空間的な進入のむすびつき」である。

「複合動詞+客体」を基本とする連語である(6)の“扑进了那厚实火热的胸膛(熱く燃えるその胸にパットとびつく)”の日本語訳は「くつつきのむすびつき」である。くつつきのむすびつきとは、ガ格のカザリ名詞が二格のカザリ名詞で示されるところにくつつくということの意味するものである。連語としての構造的なタイプとしては、ガ格のカザリ名詞は「もの名詞」、二格のカザリ名詞は「場所的な名詞」、カザラレ動詞は「くつつきを意味する動詞」である。(鈴木2011:12)

～に	～が	～する
場所を意味する名詞	もの名詞	くつつきを意味する動詞
かべにぺんきがつく	テーブルに茶わんがのる	(鈴木2011:84)

(5)と(6)の中国語の空間的な進入を表す連語“動詞+進+客体”はそれぞれむすびつきや構造的なタイプの異なる日本語に対応している。(5)と(6)の連語に後接する客体について、それぞれ“门槛”と“胸膛”である。“门槛”はもの名詞であるが、(5)の“跨进这户人家的门槛”における“进”は前述のように、“跨”という動作の方向性を示すと同時に、主体が“门槛”を境界線とするある空間に進入するという意味も含まれている。故に、“门槛”は“门槛”そのものを表すだけでなく、“门槛”を境界線とする空間をも表している。この連語における“门槛”は単語レベルではもの名詞であるが、連語のなかでは派生空間詞となっている。“胸膛”は体名詞であるが、(6)の“扑进了那厚实火热的胸膛”においては、「飛びつく」場所を表すので、派生空間詞である。(5)と(6)の連語に後接する客体はともに、意味変化していることが確認できる。

尚、(5)の“跨进这户人家的门槛「家に入った」”の“跨”と“进”はどちらかが欠けたら、連語全体が成立しなくなるか連語の表す意味が変わってしまうか<sup>7)</sup>になってしまうので、この連語における“进”は補語動詞ではなく、述語動詞であることがわかる。(6)の“扑进了那厚实火热的胸膛「熱く燃えるその胸にパットとびつく」”は前述したように、“扑

7) 中国語連語“跨进这户人家的门槛(家に入った)”は全体的には“跨”という動作により、主体がある空間に進入するという意味を表す。“进这户人家的门槛”だけでは、連語として成立しない。逆に、“跨这户人家的门槛”だけでは、敷居を跨ぐという意味になり、中国語連語“跨进这户人家的门槛(家に入った)”の全体的な意味の保持ができなくなる。

那厚实火热的胸膛”と“进了那厚实火热的胸膛”は両方とも単独で成立できないが、“扑”と“进”が合わさって初めて、“扑进了那厚实火热的胸膛”が成立できる。故に、“扑”と“进”の関係は複合動詞「動詞+動詞」であり、この連語における“进”も述語動詞である。

## 5. おわりに

本稿では中国語の“動詞+進+客体”連語を4類に分け、それぞれの類に対応する日本語訳について検討した。中国語の一表現“動詞+進+客体”連語はそれぞれむすびつきや構造的なタイプの異なる日本語連語に対応していることが明らかになった。尚、中国語“動詞+進+客体”連語における客体について、連語内では空間詞である必要がある。もの名詞や体名詞など空間詞以外の名詞が“動詞+進+客体”連語に入る場合、必ず空間詞に意味変化をする、ということが確認できた。

中国語の“動詞+進+客体”連語における“进”について、今まですべて補語動詞と認識されてきたが、筆者の分析によれば、中国語の“動詞+進+客体”連語における“进”は補語動詞と認識すべき実例はあるが、述語動詞と考えるべき実例も存在する。故に、今までの一般的な認識、つまり「動詞」に後続する“进”は一概に補語動詞と認識するのはまだ議論する余地があると思われる。

動詞に後続する“进”に関する中国語の連語構造は“動詞+進+空間詞+来/去”という構造もある。この構造においての“进”はすべて補語動詞として認識できるかどうかについてさらなる研究が必要となる。

## 言語資料

1. 『人民中国』ショートショート 人民中国雑誌社 1988～1996
2. 『人民中国』楽しく対訳 人民中国雑誌社 2014～2019
3. 『中国語学講読シリーズ』①～⑥ 柯森耀訳 北京外文出版社 1991

## 参考文献

### 日本語文献

- 王浩智 (2009) 『日本語から学ぶ中国語・中国語から学ぶ日本語』東京図書株式会社
- 鈴木康之 (2011) 『現代日本語の連語論』日本語文法研究会
- 朱徳熙著 杉村博文・木村英樹訳 (1995) 『文法講義』白帝社
- 高橋弥守彦 (2004) 「“动词+过+空间词”の中の“过”について」『日中言語対照研究論集第6号』日中対照言語学会 白帝社
- 高橋弥守彦 (2017) 『中日対照言語学概論—その発想と表現—』日本僑報社
- 高橋弥守彦 (2019) 「実質視点と話題視点—“上+客体”—」日中中日翻訳フォーラム 講演原稿
- 高橋弥守彦 (2020) 『中日翻译学的基础与构思—从共生到共创』外语教学与研究出版社
- 田中茂範・松本曜 (1997) 『空間と移動の表現』研究社
- 松本曜 (2017) 『移動表現の類型論』くろしお出版

- 丸尾誠（2005）『現代中国語の空間移動表現に関する研究』白帝社  
李臨定／宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館

### 中国語文献

- 丁崇明（2009）《现代汉语语法教程》北京大学出版社  
刘焱（2007）〈“V掉”的语义类型与“掉”的虚化〉中国语文 第二期  
李燕（2012）《现代汉语趋向补语范畴研究》南开大学出版社  
刘月华 主编（1998）《趋向补语通释》北京语言大学出版社  
邱广君（1995）〈谈“V上”所在句式中的“上”意义〉汉语学习 第四期  
朱德熙（1982）《语法讲义》商务印书馆